

第2章 教育目標達成への取組

1 幼児教育の充実

(1) 幼児教育の充実

幼児期において、生涯にわたる人間形成の基礎を培うために、幼稚園教育の充実に努めるとともに、幼児期からの家庭教育の大切さを広く啓発し、子育てに悩む保護者の支援に努める。

平成30年(2018年)4月施行の幼稚園教育要領にある、幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児の終わりまでに育ててほしい姿」についても、実践を踏まえて取り組んでいく。

■市立幼稚園の現状

明治20年(1887年)の旧熊本幼稚園の創立に始まり、戦後8園となる。昭和58年(1983年)に旧熊本幼稚園と旧五福幼稚園が統合され、7園(碩台幼稚園・一新幼稚園・向山幼稚園・古町幼稚園・川尻幼稚園・楠幼稚園・熊本五福幼稚園)となった。平成4年度(1992年)から3・4・5歳児の3年保育を順次始め、平成6年度(1994年)から全園で実施している。平成22年(2010年)3月の合併により、隈庄幼稚園が加わり8園となった。

また、平成27年度(2015年)からスタートした子ども・子育て支援新制度にあわせて施設型給付の幼稚園へ移行し、世帯所得に応じた保育料となるよう改定した。

平成28年(2016年)熊本地震で住家が半壊以上の被災をされた世帯へ平成28年度(2016年度)、29年度(2017年度)の保育料減免を実施した。

平成30年(2018年)3月末で古町幼稚園と熊本五福幼稚園を民間移譲し6園(碩台幼稚園・一新幼稚園・向山幼稚園・川尻幼稚園・楠幼稚園・隈庄幼稚園)となった。

令和元年(2019年)10月から幼児教育・保育の無償化制度がスタートし、市立幼稚園においても保育料の無償化が始まった。

隈庄幼稚園では、平成22年(2010年)3月の合併前から実施している給食や預かり保育を引き続き実施しており、他の5園でも、平成26年度(2014年度)から15時までの預かりを実施している。一方、特別な支援が必要な園児や外国籍の園児等が増えてきており、6園に計3人の学級支援員を配置した。

令和3年(2021年)の園児数は、279人(5月1日現在)

■市立幼稚園基本計画

○平成27年度(2015年度)の取組

特別支援教育の推進、公私含めた幼稚園教諭等の資質向上や幼・小接続の取組の推進等の幼稚園教育をリードする「コア幼稚園」としての機能強化、平成30年度の古町幼稚園・熊本五福幼稚園の閉園と民間移譲の内容などを含む「熊本市立幼稚園基本計画」を策定した。

○平成28年度(2016年度)の取組

「コア幼稚園」として、具体的な取組を推進するとともに、民間移譲に向けた公募を行い、熊本五福幼稚園については、学校法人熊本YMCA学園を引受法人として決定した。(古町幼稚園については、応募がなかったため、平成29年度に再募集を行うこととした。)

○平成29年度(2017年度)の取組

古町幼稚園の引受法人の再募集を実施し、学校法人グリーンコープを引受法人として決定した。古町幼稚園・熊本五福幼稚園において、民間移譲に向けた合同保育を実施し、平成30年3月を以って

閉園した。

幼小接続の取組として、接続カリキュラムを作成し、熊本市内の小学校・幼稚園に配付し、熊本市のホームページにも掲載し、活用を促している。

○平成30年度（2018年度）の取組

古町幼稚園・熊本五福幼稚園において平成30年（2018年）4月に民間移譲を完了し、熊本五福幼稚園内ことばの教室は、向山幼稚園五福ことばの教室として、引き続き同敷地で指導を行なっている。また「あゆみの教室」を川尻幼稚園で開設するために、指導者の研修や教室の整備等の準備を進めた。

○令和元年度（2019年度）の取組

集団生活に困り感のある熊本市内の年長児を対象に、就学に向けた通級指導教室「あゆみの教室」を川尻幼稚園に開設した。

各園での安全確保と共に、大型遊具点検に伴い、順次、大型遊具の見直しが計画されている。

○令和2年度（2020年度）の取組

平成28年（2016年）3月に策定した「熊本市立幼稚園基本計画」終了後の課題を踏まえて、新たな基本計画策定に向け検討を行った。

○令和3年度（2021年度）の取組

令和3年度（2021年度）に、「市立幼稚園における特別支援教育等に関する検討委員会」を設置し、「特別支援教育の充実」、「幼小連携の推進」、「幼稚園教諭等の資質向上」、「地域の拠点施設としての市立幼稚園の役割」などに関するこれからの市立幼稚園のあり方について、計5回にわたって議論を行い、報告が取りまとめられた。

この報告を踏まえ、令和3年度（2021年度）中に、新たな基本計画を策定予定。

■幼稚園教職員の資質向上

○職員体制の充実

10年以上、見合わせていた新規幼稚園教諭の採用を、平成28年度（2016年度）から実施し、専門性の高い教諭の確保を行っており、コア幼稚園としての保育の充実を図っている。

○職員研修の充実

教育センター研修として、1回の幼児教育研修（幼小合同研修）を行っている。平成28年度（2016年度）からは、私立幼稚園・こども園等の教諭も参加希望の対象としている。経年者研修では、法定研修である初任者研修、中堅教諭等資質向上研修、指定研修である「15年経験者研修」「初任園2年目研修」「初任園3年目研修」「臨時的任用教職員研修（1, 2年目臨任者）」を行っている。

また、教育委員会の指定研究を行い、今日的な教育課題についての研究実践を通して、本市の幼稚園教育の充実を図ってきた。（平成29年度 隈庄幼稚園 令和2年度 碩台幼稚園（感染症防止のため未実施）さらに令和3年度からは、6園がESDの研究モデル校として研究実践を行っている。

その他、市立幼稚園研究会、国公立幼稚園研究会等の研修会への参加や園内研修を推進し、保育及び教員の質の向上を図っている。

■ことばの教室

昭和58年（1983年）に熊本五福幼稚園に幼児言語治療学級を設置し、現在はことばの教室として、構音や吃音など、ことばの課題の改善を図ることで心と体の望ましい成長と発達を促すことを目的に、熊本市在住の年長児を対象として通級指導を行っている。

平成26年度（2014年）から、指導者を3人増員して碩台幼稚園に拡充し、熊本五福幼稚園の7人と合わせて10人の指導者で実施している。平成30年度（2018年度）から、熊本五福幼稚園は民間移譲となり、ことばの教室については引き続き同敷地内にて「熊本市立向山幼稚園五福ことばの教室」として市直営で通級指導を実施している。

年々、希望者が増加しており、受け入れる人数や特性に応じた指導の見直しを行っている。

<ことばの教室利用者数>

令和元年度（2019年度）119人（五福83人・碩台36人）（令和元年5月1日現在）

令和2年度（2020年度）120人（五福84人・碩台36人）（令和2年5月1日現在）

令和3年度（2021年度）156人（向山108人・碩台48人）（令和3年5月1日現在）

■あゆみの教室

令和元年（2019年）4月に川尻幼稚園にあゆみの教室を開級し、学校教育を見据えた指導を行うとともに、円滑な移行を促すことを目的に、集団参加や人とのかかわりなどに不安のある熊本市在住の年長児を対象として通級指導を行っている。

令和3年度（2021年度）は、3人の指導者で指導を実施している。

<あゆみの教室利用者数>

令和2年度（2020年度）22人（令和2年5月1日現在）

令和3年度（2021年度）32人（令和3年5月1日現在）

■幼小連携

幼小接続を見通した教育課程の実施・検証を行い、公開保育や公開授業を実施するモデル園として、向山幼稚園・碩台幼稚園の指定、熊本市版幼小接続カリキュラムの作成、幼小中連携の日の活動や連絡会、交流活動などを実施している。

（2）家庭教育支援

■就学前手引書

就学前手引書として「ピカピカ1年生カレンダー～入学へのアプローチ～」を作成し、各学校で行われている就学时健康診断等の機会を利用し、内容を説明すると共に、就学前児童全員に配付し、小学校教育生活へのスムーズな橋渡しができるよう支援している。

その他、熊本市内の幼稚園、こども園、保育所、幼児に関する諸機関にも配付し、幼児教育機関と連携した取組ができるようにしている。

令和3年度（2021年度）向けには、コロナ禍の生活習慣として、マスクの着用、手洗い等への啓発を行っている。